

三学部横断ゼミ履修生が
横断ゼミのリアルを届ける冊子

横断でなくちゃ。



「それでは、チームで担当企業の CSR 報告書を作ってください。」

必要なものは、全力になる「覚悟」。

それだけでいい。

気づいたら、成長している自分がいるから。

さあ、飛び込もう。

おまたせ、本気の私。

妥協できない環境

とりあえず飛び込んでみた世界。
自信がなくて、本気のフリして周りに合わせた。
そんな私に、殻を破るきっかけを先生はくれた。
本気になるのが怖くなくなった。



生まれる化学反応

初めからチームワークはなかった。
それでも、本気の姿勢はチームに伝染した。
私達の中にくすぶっていた個性が引き出されると、
爆発的なチーム力が生まれた。

打ちのめされる日々

痛いほど指摘を受け、
答えがわからず泣きそうになる。
「ではどうするか。私達はどうしたいか。」
仲間とだから、何度転んでも、泥臭く。
ここだけは、譲らない。

気づいたら、成長

「企業の方の期待を超えたい」
その一心でがむしゃらになるうちに、
知らない私に会えた。
ここまできたから見える景色があった。
気づいたら、成長している自分がいた。

なぜ履修したか

履修前とのギャップ



経済学部 3 年 男子

学部学科の枠を越えて課題解決をしていく点、一般企業と直接的な繋がりを持てる点に魅力を感じました。「この大学でしかできないこと」に挑戦しました。



社会学部 2 年 女子

自分自身を客観的に知る有効な場所だと思いました。「チームで取り組む」ことに苦手意識があり、克服する機会になればと思い履修を決意しました。



経済学部 2 年 男子

想像よりも、自分の時間を全て注ぎ込む感覚でした。両立は自分次第でできるが、大詰めを迎えている時期は横断ゼミの時間を優先させるくらい夢中でした。



人文学部 3 年 女子

「ただ辛くて、大変なゼミ」と噂を聞いていたが、それ以上に得る物は多く、学習環境も整っていました。メンバーにも恵まれ、新しい居場所を見つけました！



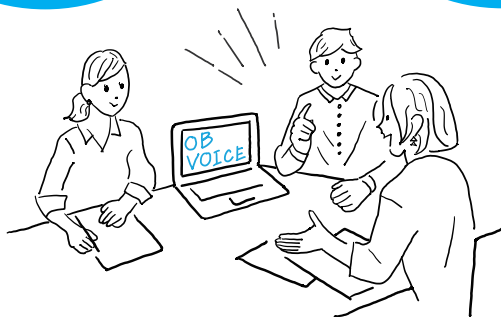
人文学部 1 年 男子

受講した先輩が横断ゼミの魅力を楽しそうに語ってくださり、興味を持ちました。不安な点もありましたが、とりあえず横断ゼミの世界に飛び込みました！



社会学部 2 年 女子

「意識高い系」の学生が集まるんだろうと勝手に想像していました。でも、「がむしゃらに全力で取り組む」ような学生ばかりで、良い刺激になりました！



怒涛のラスト1週間

2018 年度後期横断ゼミのリアル

12/17
Mon.

～本番5日前～

「完成とはほど遠いプレ発表」



ここまで悩み抜いてきたが、未だ発表するには程遠い状況だった。理想としている報告書は本当にこの程度なのか。今やチームは一つになることができた。辛く、きつい時間だが、最後まで走り抜けるだけだ。

12/18
Tue.

～本番3日前～

「夜を徹した激動の追い込み」

先生方のフィードバックに心が折れそうになる。辛い。でもここでやめるのか。辛いのはチームの皆も同じだ。皆を頼る部分と、皆に頼られる部分がそれぞれにある。皆、自分にできることを自ら考えて流動的に動いている。ならば自分も皆の信頼に応えたい。寝る間を惜しんででも。

12/19
Wed.

～本番1日前～

「最後までこだわり抜く」

当初の完成予定日はとうに過ぎているが、チームの全員に完成形が見えている。ここまでできたんだ。絶対にここで妥協したくない。その熱意に先生方も付き合ってくれた。一瞬一瞬全てをブラッシュアップに注ぎ込む。「企業の方の喜ぶ顔が見たい」その一心で。

12/20
Thu.

～本番当日～

「有終の美」



半年間、この日のために全てを捧げてきた。自分たちの伝えたかったことは伝わるのだろうか。杞憂だった。担当企業様から「感動しました。」という言葉聞いたとき、涙が溢れた。この達成感他では味わえない。これで良かったんだ。

12/21
Fri.

12/22
Sat.



#私の知らない横断

#横断の先生

なぜそこまで向き合ってくれるのか

玉置 私は教えるのが好きというのもありますが、横断ゼミでは自分が伝えたことがそのままダイレクトに返ってくるので、目に見える形で成長につながっている皆さんを見ていただけ、こちらは頑張れています。

大熊 なぜそこまで言われても、当たり前をやってきただけで…。学生に向き合い、できることを尽くす責任感と覚悟がベースだから。その上で、学生の反応や成長した姿が直接見られて、返ってくるから、喜びがあるのだと思います。

高橋 本気の学生の姿勢を見ているから、つつい皆さんのために尽くしてしまう。我々教員も一つのチームなので、大変だと思ったことはないよね。

なぜ他のゼミと違うのか

伊藤 三学部の教員、協力企業、キャリアコンサルタント、その他多くの繋がりで成り立っている点。多くの出会いの中で視野を広げ、得るものも大きいという多様さ。この繋がりのなかで何層にもわたる学びが、あれだけの濃い時間につながるのではないでしょう。

大熊 大学での専門的な学びだけでなく、人としての総合力を高めることで、大学と実社会をつなぐ役割もあると思っています。

高橋 確かに机上の学問とは違って、本物の企業の人の生き様を目の当たりにすることで学生の姿勢が変わる。学生の姿勢が変わると、企業の人も変わる。この繋がりと、相互作用は横断ゼミならではのよね。

玉置 相互作用の話になりましたが、教員と学生の相互作用が最も顕著に現れるのが授業後に書く日記なんです。頭の中で考えていることを相手に伝えるための一つのツール。自分の考えを見せることを密にやる横断において、日記は自己分析 & 他己分析に欠かせない存在なんです。

伊藤 日記を書くって事は、自分も見つめるけど、他者も見つめるので、効果があるということですね。

玉置 「ゼミの武蔵」を表現しているのが横断ゼミ。武蔵に入ったなら必ず取って欲しいものです。

教員も横断をしている

玉置 僕たち教員は、何も話し合っていないんですよ、自然と出来上がっていた役割分担みたいなのが、不思議なことにものすごく安心感があった。話し合っていないんですが、途中高橋先生が「パッションの玉置」と言ってくれたり(笑)。教員も横断をやっています。

大熊 確かに。教員は同時に研究者でもあり、そこは孤独で厳しい世界。学部を超えて専門領域を持ち寄れるこの横断ゼミという場所は、自身の研究にも新しい気づきをたくさんくれる。こんなに心地いい場所が大学にあるんだって私は思う。

伊藤 同じ空間で違う三学部の教員と一緒に授業する奇跡みたいな授業ですね。

経済学部助教

Okuma Mineko

大熊美音子

学生と一番長く接しているのが教員というだけで、多くの人がつながってできている授業。



元人文学部招聘教授

Takahashi Norio

高橋則雄

武蔵学生の特徴が顕著に現れる横断ゼミ。諦めない粘り強さ、向上心、根性。だから感動する。



社会学部助教

Tamaoki Yusuke

玉置佑介

横断ゼミの「教えない教育」。答えをそのまま伝えない。そのさじ加減でいつも悩んでいます。



横断ゼミ事務局

Itou Hiroko

伊藤普子

見えないけど、社会は他者との繋がりの上で成り立っている。横断ゼミも同じ。色々な人が支えている。





就職活動でも…

就活で色々な企業を見て
いるけれど、どこか横断で
担当した企業と比較してい
る自分がある。横断を思い
出せば、企業のどこを見
れば良いかわかる気
がする。



大学生活でも…

授業やゼミでも、しっ
かりと意見を伝えて相手
の考えを聞くのが重要だと
考えるようになった。そ
んな姿勢を横断で身
に付けられた。



企業の意志…

担当した企業は、印刷会社だっ
た。職人気質でこだわりの強いその
企業が大切にしている「色」は何でかっ
ていいんだろうと、いつか自分も大事に
するようになっていた。それは横断が終
わっても途切れることはない。冊子一
つ制作する際にも、デザインや色使いに
ここまでこだわるようになるなん
て。あの企業のこだわる姿勢は
自分にも伝染っていた。



意識が変わった…

横断を通して、自分のス
キルアップを意識するよう
になっていた。情報やアイ
デアは漏らす事なく、メモをする
ようになった。横断によ
って、自身の行動の基礎を
変える事ができた。

他団体で気づく…

横断を終えて他の活動に参
加した時に、はっきりとその成
長を実感できる。苦手だと思っ
ていた事が、本当は自分の強みである
事に気づけた。一回りも二回りも成
長した自分に出会える。そんな毎
日がずっと続いている。横断は私
の体の一部となっ
ている。

外部の大会に参加…

横断に続く何かがあった
た。「社会人基礎力育成グラン
プリ」を知った時、横断の仲間です
りたいと感じた。横断のように、目指
すゴールは遥かに遠く、辛かった。でも
あの頃の経験が蘇って、確実にでき
る事が増えていた。横断に参加し
たから、もう一度ここまでや
りきる経験ができた。



会話の変化…

人とのコミュニケー
ションの取り方は、驚くほ
ど変化した。どうしたら横
断のような関係性を築ける
だろうか、と奮闘する
毎日。

横断元鬼

良いものを作りたいという一体感
と作業に没頭する毎日。妥協しな
いでやり遂げる姿勢と仲間とのコ
ミュニケーションの重要さを痛感
した。人生で一番本気になった。

この冊子は、
あなたに「横断ゼミを履修するきっかけになってほしいな」という
壮大なお節介から、作られました。

私たち横断卒業生は、
横断を終えた一年後、
さらにその半年後も
“もう一度あの時のような達成感を
あのメンバーで味わいたい”
という思いで再集結しています。

横断ゼミは、
あなたの人生の可能性を必ず
広げてくれます。

この冊子に込めた私たちの想いが、
あなたの横断への一歩に繋がれば
本望です。

「横断でなくちゃ。」制作チーム 一同

岩垣穂乃歌 金子隼大
川村奎太 山崎友理

